

当院勤務医の高齢化、医師事務作業補助体制の現況

マツダ株式会社マツダ病院 副院長 五明 幸彦

広島県医師会勤務医部会委員（安芸地区医師会勤務医担当理事）ということで勤務医ニュースを書くことになりました。前々回の勤務医ニュースに勤務医の高齢化について書かれていたのを読ませていただいて、当院の常勤医の年齢と性別を確認してみました。

マツダ病院は270床の総合病院です。臨床研修病院であり、安芸地区の基幹病院として地域医療を担っています。常勤医師数は54名で、そのうち研修医6名、健診科医師3名（すべて女性）を除くと45名です。45名の年齢構成ですが、60歳以上は3名、50-59歳は11名、40-49歳19名、30-39歳9名、20歳代3名で、女性医師数は6名でした。当院においても、10年前と比べ、女性医師が増え、40歳代、50歳代の医師の増加がみられました。

病院には当直業務があります。当院においては年齢50歳以上の医師と子育て中の女性医師は当直を免除されています。残りの先生たちが当直業務を担当することになりますが、月平均で2回弱の頻度です。しかしながら、今年50歳になる医師が数名います。今のままでは当直回数が月2回を超えそうです。当直免除の要件を再検討し対応しなければなりません。

話は変わりますが、先々月広島県医師会勤務医部会で医療クラーク（医師事務作業補助者）に関する討論会が広島医師会館で開かれました。広島県内の10施設の現状（医療クラークの人数、配置場所、雇用形態、業務内容、教育方法や医師事務作業補助体制加算など）についてで

当院では、医師事務作業補助者を医療クラークと呼び、当初は3名の医療クラークを採用し、100対1加算（138点）を申請していました。一昨年より、医療クラークを7名に増員し、40対1加算（330点）を取得しています。医療クラークの管理部署は事務グループ（企画・情報管理チーム）です。雇用形態は7名中、4名が嘱託、3名がパートナーで、勤務形態は週5日、おおむね1日8時間勤務です。入社時の研修は32時間の教育プログラムを行い、以後6ヵ月間は先輩クラークの下で研修します。さらに配属診療科の医師からの教育も行われます。クラークの業務内容ですが、外来医師代行入力、診断書などの書類作成、退院サマリー入力、NCD入力（外科手術症例のインターネット登録）などが主な業務です。医師の多くが医療クラークが医師事務作業を補助してくれることで、膨大な事務作業に割く時間が減少したとし、おおむね好評で、さらなる医療クラークの増員を希望しているようです。今期は3名を採用し10名体制となります。現在、当院で施行している業務内容に加え、院内がん登録などの統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業、行政上の業務で救急医療情報システムへの入力、感染症サーベイランス事業にかかわる入力、各種学会の認定施設申請や更新のための書類、医師の学会発表のための資料作成、各種研修会の立案と運営など、医療クラークの業務内容が拡がればと思っています。

以上が当院の現況です。